建築作品部門

建築物の保存問題全般

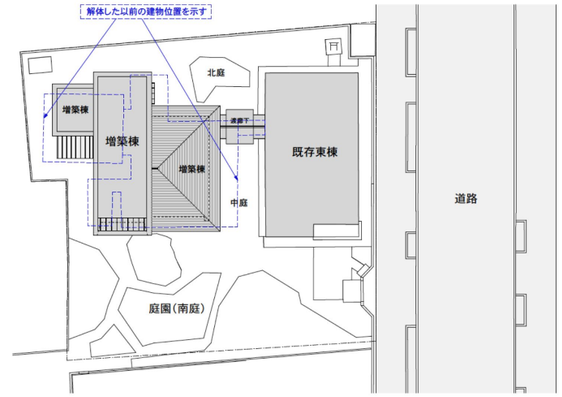
足利・緑町の家　（栃木県）

東日本大震災による半壊建物の建替えと
景観に寄与する既存棟との調和を図る

　この敷地の角には「下馬橋古趾（げばばしこし）」と刻まれた石碑があり、1019年に京都からの勅使を足利家綱が下馬して出迎えた場所とされている。古くからの街道筋にあった敷地には昭和初期に建てられた切妻瓦屋根と下見板張りの家屋と塀があり、地域の景観にも寄与している。
　2011年の東日本大震災では足利市も大きな揺れに見舞われ、敷地内の母屋と蔵が半壊となる被害を受けた。この二つの棟は取り壊し建て直すこととし、軽い被害で済んだ道路側の東棟は耐震補強して修復することになった。
　建替えするにあたっての建主からの希望は、RC造の堅牢な建物にすること、断熱性能の高いものにすること、また父側の室内は以前の記憶を残す和の空間にすることとし、息子側の室内はコンクリート打ち放しのモダンな空間とすることなどが求められた。
　かくして新しいデザインも求められた増築棟であるが、既存の東棟と庭との調和をはかり、さらに古い材料や建具の再利用と、和室の復元を試みることとなった。

調和　建て替える増築棟は、堅固で暖かく、かつデザインを一新することが求められた。
RC造外断熱工法、外壁はタイルと木を使用するが、既存棟との調和を図りながら配色と質感を決定した。

⬆アプローチ部から見る。右側が既存東棟



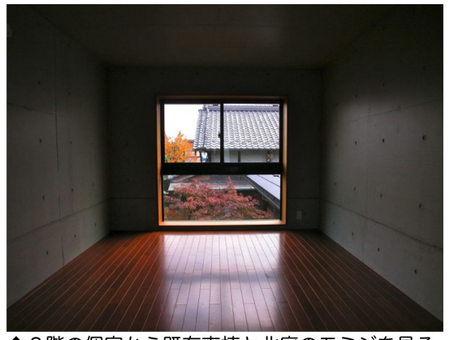
復元　RC造の躯体の中に和空間を再現した。柱は構造的には使っていない。床の間、床柱、違い棚、天井板は解体した母屋の材料を使用した。柱や長押、廻り縁などは新旧が混在するが、色合わせを行っている。障子は新規のものであるが、腰板の欅板は壊れた家具の材料を再利用した。

⬆建替えた増築棟を見上げる

街並み　道路からの既存東棟と板塀は良好な街並みに寄与し、足利市建築文化賞も受賞している。

再利用　１階納戸入口には旧母屋の建具を再利用した。コンクリート打ち放しとの対比で古い建具を引き立たせる。階段はこの建具と色合わせをした。⬇

⬆既存東棟側から見る。屋根を低くし中庭を明るく。


⬆２階の個室から既存東棟と北庭のモミジを見る。

⬆解体した蔵の引戸を再利用した収納入口。家具の出し入れの際に使用する。

⬆コンクリート打放しの１階内部から南庭を見る

応募代表者：飯井 雅裕

株式会社 飯井建築設計事務所

[プロフィール]
1959年　群馬県高崎市生まれ
1978年　群馬県立高崎高等学校　卒業
1983年　千葉大学工学部建築学科　卒業
1983年　岡野設計監理事務所　勤務
1988年　アルクデザインパートナーズ　勤務
1995年　飯井建築設計事務所設立

建築主の思いを打合せを重ねながらカタチにし、心豊かに感じる空間になることを目指し、敷地の置かれた環境や魅力を生かしながら、街並から素材に至るまで調和のとれたものになるように心掛けます。